様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

柏中央地区

令和2年2月

千葉県柏市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県	市町村名	柏市	地区名	柏中央地区			面積	97ha
交付期間	平成28年～平成30年度	事後評価実施時期	令和元年	交付対象事業費	157.0百万円	国費率	0.449		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】（道路整備）中通り線整備事業 【高質空間形成施設】柏駅周辺「通り」整備事業（サンサン通り） 【高質空間形成施設】柏駅周辺「通り」整備事業（ハウディモール） 【高質空間形成施設】柏駅周辺「通り」整備事業（あさひふれあい通り） 【高質空間形成施設】柏駅東口二番街交差点改良事業
	提案事業	―

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	【高質空間形成施設】柏駅周辺「通り」整備事業（サンサン通り） 【高質空間形成施設】柏駅周辺「通り」整備事業（ハウディモール） 【高質空間形成施設】柏駅周辺「通り」整備事業（あさひふれあい通り）	【柏駅周辺「通り」整備事業（サンサン通り）】 平日が一方通行，日曜日及び祝日が相互通行道路となっている。ハウディモールの高質空間形成にあわせて，終日相互通行とし，相互通行に合わせた街並み整備を実施予定であったが，地元関係者の合意が得られず，高質空間形成施設事業をとりやめた。 【柏駅周辺「通り」整備事業（ハウディモール）】 平日が一方通行，日曜日及び祝日が歩行者専用道路となっている。当該地域については，終日歩行者専用道路にすることで，住民及び来街者が歩きやすい街並みの整備を予定していたが，地元関係者の合意が得られず，高質空間形成施設事業をとりやめた。 【柏駅周辺「通り」整備事業（あさひふれあい通り）】 一方通行の道路であり，また通勤及び通学路などにより歩行者の往来が多い通りである。当該地域は飲食店も多く，ワークショップを継続していくなかで，地元関係者からは電線類地中化や時間制限のある歩行者専用道路化などの要望があるものの，事業内容の精査に時間を要することから，高質空間形成施設事業をとりやめた。	高質空間形成施設として当初予定していた柏駅周辺「通り」整備事業だが，計画から削除したことで，歩行者通行量の伸びに鈍化が見込まれる。
	提案事業	―	―	―
新たに追加した事業	基幹事業	―	―	―
	提案事業	―	―	―

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	平成28年～平成32年度	・交付対象事業の変更に基づき交付期間を変更し，影響する数値目標を下方修正した。 ・交付対象事業の削除に伴い，関連する指標を削除した。
	変　更	平成28年～平成30年度	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	地区内居住人口	人	10,817	H27	13,184	H30		11,927	△	あり		なし	●	当市は総人口が2025年迄増加すると推計されている中，計画期間短縮を伴う計画変更においても，各種事業効果を期待し，当初目標値を据え置いたが，期待どおりの人口増につながらず，目標値達成には至らなかった。	―
指標2	柏駅周辺の歩行者交通量	人	76,980	H27	79,730	H30		95,300	○	あり		なし		駅周辺商業施設のリニューアル並びに地元関係者の各種賑わい創出策の実施により，地区全体の魅力が増加，目標値を上回る歩行者通行量となった。	―
指標3										あり		なし			
指標4										あり		なし			
指標5										あり		なし			

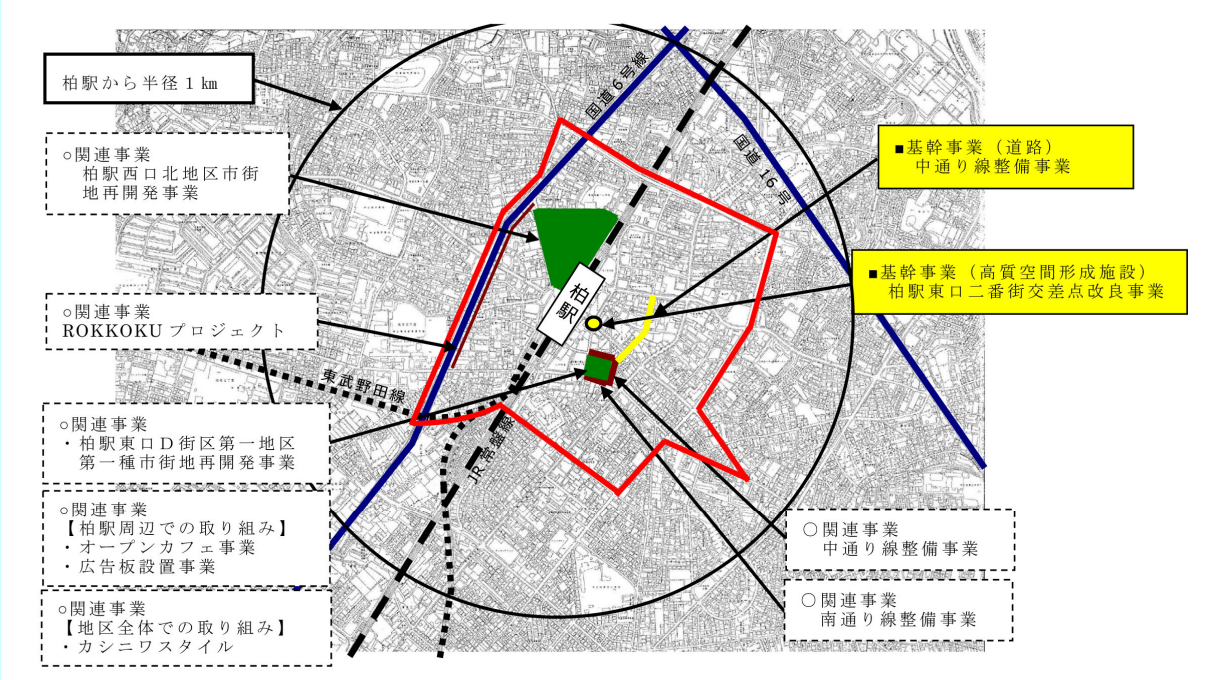
3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

	指　標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

4）定性的な効果 発現状況					
5）実施過程の評価		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	歩行者通行量調査によるモニタリング 住民基本台帳によるモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた		今後も歩行者通行量調査及び住民基本台帳により確認していく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	住民参加 プロセス	「カシニワスタイル」の取組（カシニワスタイル推進事業）※1 ROKKOKUプロジェクト※2	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●※2	※1都市のスポンジ化対策としても有効な仕組みなので，事業を継続し，空き地等を地域の庭として活用し，緑化の拡充と緑と触れ合う機会の充実を図る。 ※2事業を継続することで，近隣の小中学校や高等学校との連携を深め，賑わい創出と魅力の向上を図る。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●※1	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり 体制の構築	都市再生整備推進法人（柏市まちづくり公社）による公共空間を活用した取組※1 柏アーバンデザインセンター（以下，「UDC2」という）による公民学連携の取組※2	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	※1「UDC2」との連携を強化し，活動を継続性の担保を高める。 ※2これまでの柏駅周辺の公民学連携による活動を継続することで，さらなる交流・賑わい創出を図る。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

柏中央地区（千葉県柏市）　都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
既存市街地と再開発事業が人にやさしい都市基盤で融合する多様で魅力的なまちづくり 目標①：都市機能が集約した多世代対応型の居住環境（暮らしやすさ） 目標②：良好な商業環境により賑わいのある中心市街地（快適性） 目標③：機能的で質の高い都市基盤（利便性）	地区内居住人口	単位：人	10,817	H27	13,184	H30	11,927	H30
	柏駅周辺の歩行者交通量	単位：人	76,980	H27	79,730	H30	95,300	H30



まちの課題の変化	【達成されたこと(課題の改善状況)】 ・都市再生推進法人(「公社」)の取組(オープンカフェ事業や広告板設置事業等)の実施により，柏駅東口ダブルデッキ付近の魅力増進・賑わい創出が図られた。 ・基幹事業に位置付けた都市計画道路未整備一部区間の工事着手に向けた関係権利者等との調整および用地買収が進んだ。 ・柏駅東口二番街交差点改良の実施により，歩行者空間の環境整備に寄与した。 【残された未解決の課題】 ・賑わい創出が柏駅前東口周辺に限定されているため，実施エリアを含め多彩な利活用を促進する必要がある。 ・国道6号と都市計画道路「末広あけぼの線」の交差部を中心とした慢性的な交通渋滞が残る。 ・道路の工事着手には至っていない。 ・安心・安全でまちの魅力の向上に資する高質で特色のある歩行者空間の整備が遅れている。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	【効果を持続させるための基本的な考え方】 ・柏駅東口のダブルデッキの利活用については，都市再生推進法人(「公社」)を主体として，これまでと同様，道路占用の特例制度を活用した取組を継続していく。 ・平成28年11月に新たに法人化された「UDC2」による柏駅周辺の公民学連携の活動を継続することで，さらなる交流・賑わい創出を図っていく。 ・当初計画に位置付けていた柏駅周辺「通り」整備事業の早期実現に向け，地元関係者等との合意形成を図るための協議を継続する。 【改善策の基本的な考え方】 ・当初計画に位置付けていた柏駅周辺「通り」整備事業の早期実現に向け，地元関係者等との合意形成を図るための協議を継続する。 ・組合による柏駅西口北地区再開発事業が早期着手できるよう，必要な支援等を行う。 ・併せて，西口駅前広場を含めた地域の交通の円滑化が図られるよう，協議・検討を進めていく。 ・安心・安全で徒歩による回遊可能な歩道の整備を進めていく。

都市再生整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　住民参加プロセスの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

~~（7）有識者からの意見聴取~~

~~添付様式9　有識者からの意見聴取~~

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	―	―	―
B. 目標を定量化する指標	●		地区内居住人口 柏駅周辺の歩行者交通量 中通り線の通行時間	地区内居住人口 柏駅周辺の歩行者交通量	対象事業を供用できず，数値計測ができないため第三指標を削除した。
C. 目標値	●		指標「柏駅周辺の歩行者交通量」の目標値：88,000人	交付対象事業費の縮減割合にて，目標とする「柏駅周辺の歩行者交通量」増加量を案分し，目標値を下方修正した。	交付期間短縮（5ヶ年⇒3ヶ年），及び交付対象事業費縮減により，効果発現が鈍化するため。
D. その他（　　）		●	―	―	―

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	中通り線整備事業	300	L=260m	127	L=260m	用地確保が難航しており，事業費を減額	指標への影響がある（計測不可）ため，計画変更により対象指標を削除した。		●
高質空間形成施設	柏駅周辺「通り」整備事業（サンサン通り）	150	L=250m	0	L=0m	平成31年2月に計画変更して削除。地元関係者の合意が得られず事業中止	事業中止によるまちづくりの目標に与える影響は低い。	—	—
高質空間形成施設	柏駅周辺「通り」整備事業（ハウディモール）	150	L=220m	0	L=0m	平成31年2月に計画変更して削除。地元関係者の合意が得られず事業中止	事業中止によるまちづくりの目標に与える影響は低い。	—	—
高質空間形成施設	柏駅周辺「通り」整備事業（あさひふれあい通り）	50	L=250m	0	L=0m	平成31年2月に計画変更して削除。地元関係者の合意が得られず事業中止	事業中止によるまちづくりの目標に与える影響は低い。	—	—
高質空間形成施設	柏駅東口二番街交差点改良事業	26	A=210㎡	29	A=210㎡	工法変更との事業内容精査による増額	影響なし	●	

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業									
事業活用調査									
まちづくり活動推進事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
柏駅西口北地区市街地再開発事業		末広町	—	—	平成30年～平成39年度	平成30年～平成39年度	権利者との協議・調整中	準備組合設立準備中
柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業		柏1丁目1000番	15,972	0	平成24年～平成28年度	平成24年～平成28年度	事業完了	—
ROKKOKUプロジェクト		—	1	0	平成24年～平成36年度	平成24年～平成36年度	活動継続中 毎年7月・12月に活動	—
カシニワ制度		—	—	—	—	—	制度運用中	PRイベントを実施
道路（電線共同溝）		南通り線 中通り線 小柳通り線	220	0	平成29年～平成30年度	平成29年～平成30年度	未着手	—
オープンカフェ事業		JR・東武柏駅東口	―	―	平成28年～平成32年度	平成28年～平成32年度	継続実施中	道路占用許可特例制度適用（都市再生推進法人）
広告板設置事業		JR・東武柏駅東口，西口及び南口	―	―	平成28年～平成32年度	平成28年～平成32年度	継続実施中	道路占用許可特例制度適用（都市再生推進法人）

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	地区内居住人口	人	平成31年4月1日時点の地区内居住者数を住民基本台帳より把握し，評価値として整理する。	—	—	10,817	H27	13,184	H30	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み ●	11,927	事後評価	△		
指標2	柏駅周辺の歩行者交通量	人	「平成30年度　柏市中心市街地歩行者通行量調査」の休日における，以下8地点の歩行者交通量の総数を評価値として整理する。 【計測地点】 ①丸井VAT館駅南口拡幅部 ②小柳通り線　③ヤマモト模型 ④スカイプラザ北側エスカレーター　⑤スカイプラザ南側エスカレーター　⑥デッキ北通路　⑦柏駅西口エスカレーター　⑧デッキ接続部	—	—	76,980	H27	79,730	H30	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ● 見込み	95,300	事後評価	○		
指標3										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	計画変更（H31年2月）により，計画期間を5ヶ年から3ヶ年に短縮したが，総人口が2025年迄増加すると推計されている中，当初目標値を維持したため目標未達成となったが，計画期間前後(H26～H30)の人口増加傾向が，計画期間直前4年間(H22～H26)の人口増加傾向を上回ったことから，目標達成度は「△」とした。	柏駅東口D１の再開発事業完了に伴う居住人口増を想定し，当初目標値を設定。計画変更（H31年2月）時点においても当初目標値を維持したが，期待以上の人口増加には至らなかった。
指標2	H28年11月の柏アーバンデザインセンター（以下，「UDC2」という）の法人化以降，活発に活動が進んでいる柏駅東西ダブルデッキをはじめとする駅周辺での様々な取組や再開発事業の完成などが，期待以上の歩行者交通量の確保につながり，目標値を大幅に上回った。	交付対象事業費の縮減割合にて，目標とする「柏駅周辺の歩行者通行量」増加量を案分し，目標値を下方修正（H31年2月）した結果，目標値と確定値との間に大きな開きが出た。
指標3		
指標4		
指標5		

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○ :評価値が目標値を上回った場合
△ :評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
× :評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式２－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）			本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標1								モニタリング				
								事後評価	確定			
									見込み			
その他の数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定			
									見込み			
その他の数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定			
									見込み			

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

柏中央地区での取組としてH27年4月からスタートした「UDC2」の様々な活動が，公民学連携でのまちづくり実践地区として相乗効果を生み，全国的にも注目されていることが地区のシビックプライドにつながっている。

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
歩行者通行量調査によるモニタリング	予定どおり実施した		◆実施頻度：毎年度1回 ◆実施時期：毎年度3月 ◆実施結果：採用した指標②柏駅周辺の歩行者交通量は柏市中心市街地歩行者通行量調査により毎年度計測しているものであり，モニタリングを容易に実施することができ，かつ，交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	今後も，柏市による歩行者通行量調査を行い，人の流れ等を確認していく。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった （理由　　）			
住民基本台帳によるモニタリング	予定どおり実施した		◆実施頻度：毎年度2回 ◆実施時期：毎年度4月10月 ◆実施結果：採用した指標①地区内居住人口は住民基本台帳により毎年度2回計測しているものであり，モニタリングを容易に実施することができ，かつ，交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	今後も，住民基本台帳により確認していく。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった （理由　　）			

添付様式３－②　住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
「カシニワスタイル」の取組 （カシニワスタイル推進事業）	予定どおり実施した		◆カシニワのイメージ構築やカシニワ登録の増加を目的に，PRイベント「カシニワ・フェスタ2018～はじまります！人と緑をつなぐまちめぐり～」を実施 ◆実施時期：2018年5月16日～20日 ◆実施結果：市内各所のカシニワを巡るカシニワバスツアーやカシニワウォーキングを実施	◆都市のスポンジ化対策としても有効な仕組みなので，事業を継続し，空き地等を地域の庭として活用し，緑化の拡充と緑と触れ合う機会の充実を図る。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった （理由　　）			
ROKKOKUプロジェクト	予定どおり実施した	●	◆柏駅西口周辺地区における連続性・一体感のあるにぎわい景観の創出，良好な生活環境の形成，回遊性の向上等を図るため，国道6号を中心とした道路空間において実施する地域の多様な主体・活動と道路管理者（国道事務所），柏市との協働事業 ◆地域の多様な主体・活動 ： 地元町会，商店会，学校（小中学校，高等学校） ◆活動時期 ： 毎年7月・12月	◆事業を継続することで，近隣の小中学校や高等学校との連携を深め，賑わい創出と魅力の向上を図る。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった （理由　　）			

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
都市再生整備推進法人（柏市まちづくり公社）による公共空間を活用した取組	予定どおり実施した	●	平成26年2月に市が一般財団法人柏市まちづくり公社を都市再生推進法人に指定した。	一般財団法人 柏市まちづくり公社（都市再生推進法人） ※以降，「公社」という	◆「UDC2」との連携を強化し，活動の継続性の担保を高める。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった （理由　　）				
「UDC2」による公民学連携の取組	予定どおり実施した	●	平成27年4月に任意組織として設立された「UDC2」が平成28年11月に法人化され，組織体制が強化された。	一般社団法人 柏アーバンデザインセンター 「UDC2」	◆これまでの柏駅周辺の公民学連携による活動を継続することで，さらなる交流・賑わい創出を図る。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった （理由　　）				

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討委員会	都市計画課が主管課となり，事業に関わる全ての課（道路保全課，中心市街地整備課，一般財団法人柏市まちづくり公社）による庁内横断的な組織で検討する。	令和元年10月7日	都市計画課

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2							
指　標　名		柏駅周辺の歩行者交通量							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路　中通り線整備事業	△	駅周辺商業施設のリニューアル並びに地元関係者の各種賑わい創出策の実施により，地区全体の魅力が増加，目標値を上回る歩行者交通量となった。						
	高質空間形成施設　柏駅東口二番街交差点改良事業	◎							
提案事業									
関連事業	柏駅西口北地区市街地再開発事業	△							
	柏駅東口D街区第一地区市街地再開発事業	◎							
	ROKKOKUプロジェクト	○							
	カシニワ制度	○							
	道路（電線共同溝）	△							
	オープンカフェ事業	◎							
	広告板設置事業	◎							
今後の活用		都市再生推進法人（「公社」）の取組を継続し，地区の魅力増進・賑わい創出を図り続けるとともに，懸案の道路整備を実施することで，安心・安全，まちの回遊性や利便性を向上させ，さらなる効果発現を図る。							

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

添付様式４－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1											
指　標　名		地区内居住人口											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路　中通り線整備事業	×	当市は総人口が2025年迄増加すると推計されている中，計画期間短縮を伴う計画変更においても，各種事業効果を期待し，当初目標値を据え置いたが，期待どおりの人口増につながらず，目標値達成には至らなかった。	Ⅲ									
	高質空間形成施設　柏駅東口二番街交差点改良事業	△											
提案事業													
関連事業	柏駅西口北地区市街地再開発事業	×											
	柏駅東口D街区第一地区市街地再開発事業	△											
	ROKKOKUプロジェクト	―											
	カシニワ制度	△											
	道路（電線共同溝）	×											
	オープンカフェ事業	△											
	広告板設置事業	△											

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
―：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針（記入は必須）	都市再生推進法人（「公社」）の取組を継続し，懸案となっている道路整備を実施することで，地区の安心・安全や利便性・回遊性を向上させるとともに，居住人口の増加を図る。			

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式５－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討委員会	都市計画課が主管課となり，事業に関わる全ての課（道路保全課，中心市街地整備課，一般財団法人柏市まちづくり公社）による庁内横断的な組織で検討する。	令和元年10月7日	都市計画課

添付様式５－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
市を象徴する中心市街地である広域商業拠点としての活力のかげり	都市再生推進法人（「公社」）の取組（オープンカフェ事業や広告板設置事業等）及び「UDC2」による公民学連携の取組により，柏駅東口ダブルデッキ付近の魅力増進・賑わい創出が図られた。	賑わい創出が柏駅前に限定されているため，実施エリアを含め多彩な利活用を促進する必要がある。	―
広域幹線道路（国道）と生活道路の交差による慢性的な交通渋滞	―	国道6号と都市計画道路「末広あけぼの線」の交差部を中心とした慢性的な交通渋滞が残る。	
計画的で効果的な都市基盤の強化	基幹事業に位置付けた都市計画道路未整備一部区間の工事着手に向けた関係権利者等との調整および用地買収が進んだ。	道路の工事着手には至っていない。	
バリアフリー，歩道幅員確保，無電柱化などの歩行者空間の環境整備	柏駅東口二番街交差点改良の実施により，歩行者空間の環境整備に寄与した。	安心・安全でまちの魅力の向上に資する高質で特色のある歩行者空間の整備が遅れている。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式５－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	都市再生推進法人（「公社」）の取組（オープンカフェ事業等）の継続実施	柏駅東口のダブルデッキの利活用については，都市再生推進法人（「公社」）を主体として，これまでと同様，道路占用の特例制度を活用した取組を継続していく。	道路占用許可特例制度の活用した事業 ・オープンカフェ事業 ・広告板設置事業
	「UDC2」による公民学連携の取組	「UDC2」による柏駅周辺の公民学連携の活動を継続することで，さらなる交流・賑わい創出を図っていく。	まちなかのパブリックスペースにおける利活用策の検討並びに社会実験の実施。 民間プロジェクトの誘導並びに調整。
	都市計画道路未整備区間の工事着手に向けた関係権利者等との調整	当初計画に位置付けていた柏駅周辺「通り」整備事業の早期実現に向け，地元関係者等との合意形成を図るための協議を継続する。	早期整備を図るための関係者によるワークショップ

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策	賑わい創出が柏駅前に限定されているため，実施エリアを含め多彩な利活用を促進する必要がある。	当初計画に位置付けていた柏駅周辺「通り」整備事業の早期実現に向け，地元関係者等との合意形成を図るための協議を継続する。	歩行者の回遊性を高める道路整備
	柏駅周辺「通り」整備事業の早期実現		早期整備を図るための関係者によるワークショップ
・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	国道6号と都市計画道路「末広あけぼの線」の交差部を中心とした慢性的な交通渋滞が残る。	組合による柏駅西口北地区再開発事業が早期着手できるよう，必要な支援等を行う。 併せて，西口駅前広場を含めた地域の交通の円滑化が図られるよう協議・検討を進めていく。	再開発事業に併せた各種道路整備等を進める ・末広あけぼの線の道路拡幅 ・柏駅西口駅前広場の再整備
	安心・安全でまちの魅力の向上に資する高質で特色のある歩行者空間の整備が遅れている。	安心・安全で徒歩による回遊可能な歩道の整備を進めていく。	・柏駅周辺まちづくり10ヵ年計画に基づく整備 ・バリアフリー道路特定事業計画に基づく整備

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式５－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
	事業の実施過程の評価（添付様式３）を再確認した。
	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式４－②）を再確認した。
	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式４－③）を再確認した。
	残された課題や新たな課題（添付様式５－②）を再確認した。

添付様式５－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、１年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、１年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
													予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	地区内居住人口	人	10,817	H27	13,184	H30	確定	●	11,927	△	あり				
							見込み				なし	●			
指標2	柏駅周辺の歩行者交通量	人	76,980	H27	79,730	H30	確定	●	95,300	○	あり				
							見込み				なし				
指標3							確定				あり				
							見込み				なし				
指標4							確定				あり				
							見込み				なし				
指標5							確定				あり				
							見込み				なし				
その他の数値指標1							確定								
							見込み								
その他の数値指標2							確定								
							見込み								
その他の数値指標3							確定								
							見込み								

添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	駅周辺商業施設のリニューアル並びに地元関係者の各種賑わい創出策の実施により，地区全体の魅力が増加，目標値を上回る歩行者交通量となった。	計画変更時の見直しを含め目標値の設定は，多角的な検討を重ね，慎重を期す。
	うまく いかなかった点	全国的に人口減少期に移行する中，当市は推計上令和7年まで人口増加が見込まれるため，第1回変更時の計画期間短縮に関わらず，意欲的な設定として目標値を据え置いたが，結果的に目標到達には至らなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	―	―
	うまく いかなかった点	―	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	「UDC2」による公民学連携の取組により，活発に住民参加が行われ，相乗効果として，適切な情報公開が実施される環境が整っている。	各地区の計画の透明性を高めるため，市内の公民学連携地区（「UDCK」・「UDC2」）の活発な取組を効果的に活用し，全市的に住民参加や情報公開の成果を水平展開する（情報共有やPRの推進）。
	うまく いかなかった点	―	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	地元との合意形成の状況に応じて事業着手が難しい基幹事業を削除するなど，事業担当課との連携を図りながら柔軟な計画変更が実施できた。	事業の実施状況を踏まえながら適切な事業管理を実施する。
	うまく いかなかった点	―	
その他	うまくいった点	―	―
	うまく いかなかった点	―	

添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

・今後，事後評価を予定する地区

本市においては，令和4年に北柏周辺地区，令和6年に当地区（第二期計画）及び柏の葉キャンパス駅・柏たなか駅周辺地区の全3地区おいて事後評価を実施予定。

当地区の事後評価の経験を踏まえて，円滑に事後評価を実施したい。

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに記載	令和元年10月17日～10月31日	令和元年10月17日～10月31日	パブリックコメント（意見公募手続き）にて実施，郵送，ファクシミリ送信，電子メール及び市役所都市計画課窓口へ直接持参	都市計画課（都市再生整備計画事業担当課）
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページで原案を公表している旨を掲載	広報かしわ10月15日号	令和元年10月17日～10月31日		
説明会・ワークショップ	―	―	―		
その他	都市計画課窓口における閲覧	令和元年10月17日～10月31日	令和元年10月17日～10月31日		

住民の意見	特になし

（6）評価委員会の審議

添付様式8評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	三牧　浩也氏（柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）副センター長　東京大学大学院新領域創成科学研究科　非常勤講師）	令和元年11月26日	都市計画課	柏市社会資本整備総合交付金委員会設置要領	独自に設置
その他の委員	伏野　龍弥氏（柏商工会議所専務理事） 小池　貴氏（東神開発株式会社営業本部千葉事業部長）				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に沿って，事後評価が適正に実施されている。
	成果の評価	・目標の達成度に関する評価は問題ない。目標値の設定根拠と事業内容との関係性などを整理することが重要である。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・人口については，どういうターゲットの人々が何を求めて柏の中心市街地を居住地として選択したのか。歩行者通行量についても，バリアフリーを含めた，まちにおける使い易い（難い）点を踏まえながら計画に位置付け，評価につなげていくことが大事である。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価の原案は，市民に分かりやすく公表されている。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きの進め方については適切に進められている。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・人口については，どういうターゲットの人々が何を求めて柏の中心市街地を居住地として選択したのか。歩行者通行量についても，バリアフリーを含めた，まちにおける使い易い（難い）点を踏まえながら計画に位置付け，評価につなげていくことが大事である。 ・柏の中心市街地においては「緑」という視点が不足している。今後の住宅地の選択，買い物に行く場所については，「くつろげる場所」及び「緑」は重要な視点となる。 ・そごう撤退は中心市街地での影響は大きい。まちの賑わい創出にあたっては，柏アーバンデザインセンターとの連携や柏セントラルグランドデザインに基づく他の開発と連携を図りながら，跡地の利活用を進めていくことが必要である。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策については適切である。
その他		・駅周辺では様々な計画があり，市民にとって判り難くなっている。市民に対し「見せる」，「コーディネートする」ような機能が必要である。 ・まちの賑わい創出においては，まち全体で商業的なライバルの存在があるという状況が必要であり，まちを盛り上げる施策を進めてほしい。

※1審議事項の詳細は「評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画（第１回変更）

柏中央地区

千葉県　柏市

平成31年　2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	かしわし 柏市	地区名	かしわちゅうおうちく 柏中央地区	面積	97 ha

計画期間	平成 28 年度 ～ 平成 30 年度	交付期間	平成 28 年度 ～ 平成 30 年度

目標

大目標　既存市街地と再開発事業が人にやさしい都市基盤で融合する多様で魅力的なまちづくり

小目標①　都市機能が集約した多世代対応型の居住環境（暮らしやすさ）

小目標②　良好な商業環境により賑わいのある中心市街地（快適性）

小目標③　機能的で質の高い都市基盤（利便性）

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・当該地区は、柏市第四次総合計画・後期基本計画における「中央ゾーン」の中核となる地区である。駅周辺は市の中心市街地として、広域商業、業務、行政機能が集積した地区で、その周辺には利便性の高い居住地が形成された地区があり、更にその周辺には手賀沼、大堀川、大津川が近接して、豊かな農業環境、自然環境が広がっている。
・昭和30～40年代の高度経済成長期に、都心のベットタウンとして発展してきた柏市は、平成17年3月に沼南町と合併してた後、40万人都市となり平成20年4月に中核市へ移行した。
・平成17年8月にはつくばエクスプレスが開通し「柏の葉キャンパス駅」「柏たなか駅」が新設され、市内には10ヶ所の鉄道駅を有している。
・柏駅及びその周辺は、鉄道では常磐線と東武アーバンパークラインが交差し、道路では国道6号線と国道16号線が交差する、千葉県東葛北部圏域の広域的な交通の要衝となっている。
・当該地区の商業は、昭和48年に全国初の市街地再開発事業（柏駅東口）と人工地盤（ペデストリアンデッキ）を契機として、柏駅周辺を中心として商業機能の集積が飛躍的に進み、広域商業拠点として著しい発展を遂げてきた。
・当該地区周辺では柏駅を中心とした「かしわ祭り」、手賀沼周辺では隣接の我孫子市と共催して夏の手賀沼花火大会、秋の手賀沼マラソンが行われる。また，サッカーJリーグ「柏レイソル」のホームタウンとして地域が盛り上がっている。
・柏市では今後、急激な人口減少よりも高齢化が先に進行するため、UR都市機構が所有する豊四季台団地の建替事業に伴い、東京大学、UR都市機構及び柏市の公民学連携による「長寿社会のまちづくり施策」を展開し，コンパクトシティにおける国のモデルケースとなっている。
・平成15年に柏駅周辺地区の約20haが都市再生緊急整備地域の指定を受け、民間活力を導入した市街地の整備や都市の再構築によって、千葉県北西部の広域的な中枢機能の要衝としてその拠点性を高めるとともに、生活都市圏の中心的な地区としての再生を図ることとしている。
・平成23年には、柏駅東口A街区第二地区第一種市街地再開発事業の施行が完了し、平成24年度からは柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業が施行され、継続している。
・当該地区内に位置する中心市街地では「柏市中心市街地活性化基本計画」が平成20年3月に，「第2期柏市中心市街地活性化基本計画」が平成26年4月に認定され、『柏市の表玄関にふさわしいにぎわいの回復，楽しく憩える魅力の創出』を基本理念に，中心市街地活性化に係る事業が実施している。
・当該地区内は，平成27年7月に策定された「柏市低炭素まちづくり計画」で，集約区域のひとつに指定されている。低炭素まちづくりの将来像『屋外で楽しく過ごせるまち かしわ』を実現するため、市内5区域を集約区域として低炭素まちづくりを先導的・重点的に進めることとしている。
・柏市では，平成27～29年度に掛けて、立地適正化計画の策定作業を進めている。当該地区の一部は「都市機能誘導区域」とする予定であり、施工中の柏駅東口D街区の市街地再開発事業では、暮らし・にぎわい再生事業の都市機能まちなか立地支援により、複合施設に「（仮称）柏市民交流センター」を整備し、市内に点在していた市民交流センター、市民ギャラリー、男女共同参画センター、国際交流センターが集約され、広域生活文化拠点を目指すとともに、まちの魅力を高め、にぎわいと交流を創出する。
・当該地区の北側に隣接する柏北部地区では「都市再生整備計画（柏北部地区）」が平成26年3月に策定され、都市再生整備に関する事業が進行している。

課題

・経済状況の変化や郊外大型店舗の出店、また、つくばエクスプレスの開業による柏北部地区の発展等により、柏駅周辺の当該地区では、広域商業拠点としての活力にかげりが見えている。当該地区は柏市を象徴する中心市街地であるため、今後も、経済的・文化的に柏市及び近隣を牽引する役割が期待されている。
・当該地区では、広域幹線道路（国道）と柏駅に流入する生活道路が交差するため、柏駅周辺の道路は慢性的な交通渋滞に陥っている。また、当該地区では集客施設が集約しているにも関わらず、都市計画道路の未整備区間が見られることから、計画的で効果的な都市基盤の強化が求められる。合わせて、バリアフリー、歩道幅員確保、無電柱化などの歩行者空間の環境整備も求められる。

将来ビジョン（中長期）

【柏市第四次総合計画　後期基本計画】平成23年3月策定
・まちづくりの重点テーマとして、以下の5つを挙げている。
「1．笑顔で子育てができるまちづくり」　「2．高齢者が元気なまちづくり」　「3．産業に活気があり人が集まるまちづくり」　「4．市民が安全・安心に暮らせるまちづくり」　「5．人と環境にやさしい低炭素先進都市のまちづくり」
【柏市都市計画マスタープラン】：平成21年6月策定
・都市づくりの理念として、「想造（想い造る）」という言葉を用いて、「環境想造都市 柏」を掲げ、都市づくりを行っている。
・都市づくりの目標として、「コンパクトな都市」、「持続可能（サスティナブル）な都市」、「活力あるまち（アクティブなまち）」を掲げ、効率的・効果的な都市基盤の維持管理、先進的な拠点整備により文化や賑わいを発信する取り組みを目指している。
・将来都市構造として、「柏版コンパクトシティ」を掲げ、当該地区は全市のなかでも高次の都市機能が集積し、交通のハブとなる都市拠点として位置づけられている。

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内居住人口	人	当該計画地区内の居住人口	【目標1に対応】 歩行空間の確保や沿道店舗の賑わい創出により、魅力有る居住環境となって、計画地区内の居住人口増加を目指す。	10,817	H27	13,184	H30
柏駅周辺の歩行者交通量	人	柏駅周辺における来街者の人数	【目標2に対応】 再開発事業の推進やイベントの開催等により、活力有る中心市街地を形成し、計画地区内の来街者増加を目指す。	76,980	H27	79,730	H30

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1：都市機能が集約した多世代対応型の居住環境（暮らしやすさ） ・計画区域内で緑化を図るため「カシニワスタイル」を推進し、市民の憩える緑豊かな空間の創出を図る。合わせて、市民と行政が連携して、空き地等を地域の庭として活用した市民参加型のイベントを開催し緑と触れ合う機会の創出を図る。 ・柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業において、「（仮称）柏市民交流センター」を整備することで、広域生活文化拠点を目指すとともに、まちの魅力を高め、にぎわいと交流を創出する。 ・国道6号線に沿った計画区域内の交差点周辺に憩い空間や休憩スペースの創出を行い、国道を横断する際の地下道には、近隣の小中学校や高等学校と連携して絵画等を展示することで、賑わい創出と魅力の向上を図る。	【基幹事業】 高質空間形成施設：柏駅東口二番街交差点改良事業 【関連事業】 カシニワスタイル推進事業 柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業（再開発組合） ROKKOKUプロジェクト
整備方針2：良好な商業環境により賑わいのある中心市街地（快適性） ・柏駅周辺で一番賑わいのあるスクランブル交差点を、安全性や快適性等の機能強化を目的に耐久性の有る舗装へ全面的な改良を行い、人や車にとって通行し易い交通環境の形成を図る。 ・中心市街地にふさわしい安全で快適な都市環境・都市空間を創出するため、歩者道の段差解消、緑地帯や休憩スペースの設置により、歩いて楽しくうるおいのある空間形成を図る。 ・地域主導でまちの賑わいを発信していくため、都市再生整備推進法人を指定し、当該法人が公共空間を活用した広告事業や路上空間を活用したオープンカフェ事業等の実施により、まちの賑わい創出と魅力の向上を図る。 ・市街地再開発事業を行うことで、老朽建物の解消、公開空地の活用、快適な都市環境の演出等が実現する。また、当該事業と併せて都市計画道路の整備や改良を実施することで、空間整備や面的開発による基盤整備等の取り組みが一体的に可能となる。	【基幹事業】 高質空間形成施設：柏駅東口二番街交差点改良事業【再掲】 【提案事業】 道路占用許可特例制度 【関連事業】 柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業（再開発組合）【再掲】 柏駅西口北地区再開発事業
整備方針3：機能的で質の高い都市基盤（利便性） ・柏駅東口の都市計画道路を、緑が多く段差が少ない歩行者優先道路として拡幅・改良する整備事業を行い、ユニバーサルデザインに配慮した歩行空間の確保を図る。中通り線は、柏駅東口の2つの再開発事業ゾーンを結び付け、地区内ネットワークの形成を図ることができる。 ・柏駅東口の再開発事業で、商業、業務施設、公益施設、都市型住宅等からなる複合施設が整備されることから、一体的に整備される複合施設周辺の都市計画道路に、良好な街並みの形成、歩道空間を確保、まちの回遊性を向上するため、電線類の地中化を図る。 ・柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業において公開空地を確保することにより、憩い空間、休憩スペースの創出や高齢者、子育て世帯の人にも安心して歩けるよう潤いのある道路空間の整備を図る。	【基幹事業】 道路：中通り線整備事業（道路整備） 【関連事業】 道路：中通り線整備事業（電線共同溝） 道路：小柳町通り線整備事業（電線共同溝） 柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業（再開発組合）【再掲】

その他

様式3　目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	157	交付限度額	71	国費率	0.449

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B／C
道路	道路整備	中通り線整備事業	柏市	直	L=260m	28	30	28	30	127	127	127		127	－
公園															－
古都及び緑地保全事業															－
河川															－
下水道															－
駐車場有効利用システム															－
地域生活基盤施設															－
高質空間形成施設		柏駅東口二番街交差点改良事業	柏市	直	A=210㎡	28	28	28	28	29	29	29		29	－
高次都市施設															－
中心拠点誘導施設															－
生活拠点誘導施設															－
既存建造物活用事業（中心拠点誘導施設）															－
土地区画整理事業															－
市街地再開発事業															－
住宅街区整備事業															－
地区再開発事業															－
バリアフリー環境整備事業															－
優良建築物等整備事業															－
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型														－
	沿道等整備型														－
	密集住宅市街地整備型														－
	耐震改修促進型														－
街なみ環境整備事業															－
住宅地区改良事業等															－
都心共同住宅供給事業															－
公営住宅等整備															－
都市再生住宅等整備															－
防災街区整備事業															－
合計										157	157	157	0	157	…A

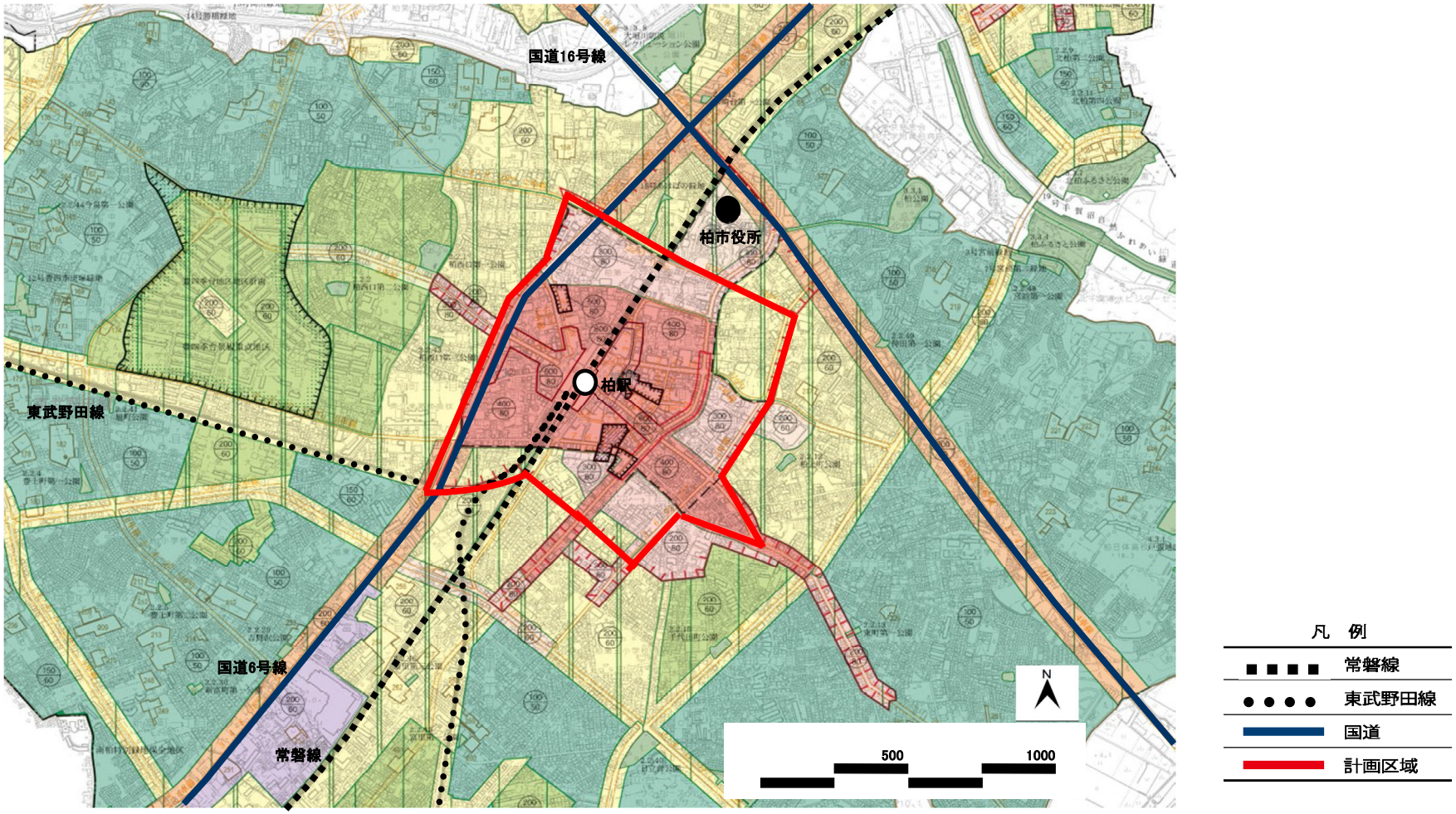
提案事業（継続地区の場合のみ記載）

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
地域創造支援事業															
事業活用調査															
まちづくり活動推進事業															
合計										0	0	0	0	0	…B
													合計(A+B)	157	

（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに〇）直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
柏駅西口北地区市街地整備再開発事業	末広町	組合	国土交通省	A＝38,000㎡		〇			H30	H39	
柏駅東口D街区第一地区第一種市街地再開発事業	柏1丁目1000番	組合	国土交通省	A=8,000㎡		〇			H24	H28	
ROKKOKUプロジェクト		ROKKOKUプロジェクト会議		L=700m			〇		H24	H36	
カシニワ制度		（財）柏市みどりの基金					〇				
道路（電線共同溝）	中通り線 小柳町通り線	柏市	国土交通省	L=70m L=100m		〇			H29	H30	
オープンカフェ事業	JR・東武柏駅東口	(一財)まちづくり公社		A=570㎡				〇	H28	H32	
広告板設置事業	JR・東武柏駅東口，西口及び南口	(一財)まちづくり公社		69箇所				〇	H28	H32	
合計											0

都市再生整備計画の区域

柏中央地区（千葉県柏市）	面積	97 ha	区域	あけぼの1丁目、末広町、旭町1丁目、柏1～4丁目、中央町、中央1丁目の一部、柏5～6丁目の一部、東上町の一部

※　計画区域が分かるような図面を添付すること。